

令和6年度 府立北桑田高等学校 美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(中間段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。</p> <p>2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。</p> <p>3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。</p>	<p>〔成果〕</p> <p>1 基礎基本の定着に重点を置いた授業を展開し、学習成果発表の機会を多く設けて生徒の学習意欲の向上につなげることができた。</p> <p>2 生徒個々の持つ課題をS.C.やS.S.W.、行政関係機関や医療と連携して、個別最適な指導につなげることができた。</p> <p>3 美山の地域人材や地域の文化に関わって特色ある取組みを促進し、広報にも活用することができた。</p> <p>4 地域人材による専門的技術の指導や、校内での資格取得講座の充実により、専門学科に関する資格取得者が増加した。</p> <p>〔課題〕</p> <p>1 生徒の学習用端末使用頻度について、教科間で違いが生じている。</p> <p>2 資格取得について、学科間で差が生じている。</p> <p>3 「働きながら学ぶ」学校目標ではあるが、就労率が40%弱である。</p> <p>4 ホームページによる情報発信について課題が残る。</p>	<p>1 学習用端末の活用に関わって、教材・指導方法の工夫改善について研修を活用し、充実を図る。</p> <p>2 学科の学習内容に応じた資格取得について、授業内を利用して受験を勧め、必要に応じて補習も実施し、資格取得者の増加を目指す。また受検を通じたキャリア意識や専門力の向上を図る。</p> <p>3 小論文指導や面接講座など生徒のニーズに応じた適切な教育的支援を行い、進路実現を図る。</p> <p>4 働きながら学ぶという目標のもと、就労を通じた社会性獲得を図る。</p> <p>5 個に応じた充実した支援・指導のため、関係機関や医療等の連携を継続し、プラットフォームとしての機能を果たす。</p> <p>6 専門学科の特徴的取組や部活動、学校行事について、広報を積極的に行い、外から見える学校づくりを進める。</p> <p>7 安心安全な学校づくりを進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教職員の資質・能力の向上を図る。	教職員間や関係機関、地域と積極的に交流し、研修を計画的に活用することで、課題解決能力の向上に努める。 ICTの利活用促進や探求的な学習の指導を工夫し、生徒の興味関心を高めるノウハウの構築を目指す。	B	B	B
	組織的、計画的な指導体制を確立する。	小規模校の強みを生かし、教職員の連携を意識し、計画的な教育実践を通じて教育目標の達成を図る。 内部規定を整理し共有することで、効率的な校務運営を目指す。	A	A	
	分掌間の連携や分掌業務の見直しで負担軽減を図る。	ICTを活用した情報発信力の強化と情報共有を促進し、業務負担の軽減を目指す。	B	B	
教育課程	学校の特色を生かした教育課程の編成	学科に応じた特色ある教育課程を編成し、評価、改善に取り組む。	A	A	
		生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程を編成し、評価、改善に取り組む。	A		
		生徒の進路実現に向けた教育課程を編成し、評価、改善に取り組む。	B		
	新学習指導要領に則した教育課程の編成と観点別評価の実施	新学習指導要領が導入されて4年目になる本年度においては、最新の情報を入手しつつ効果的な編成ができるよう努力を継続する。 最新の情報を入手しつつ、観点別評価がより適正に実施できるよう努力する。	A	A	
教科指導	各教科の目標を明確にして、計画的な指導を実践する。	シラバスにおいて年間計画を提示し、それに基づいた計画的な指導を行う。	A	A	
		授業公開を通して課題を明確にし、授業改善を図る。	A		
	個々の生徒の学力を充実させる。	個々の生徒の学力、理解の程度を把握しつつ、定期的に指導計画の点検と見直しを行う。	B	B	
		学習習慣の確立や基礎事項の反復等、基礎学力の定着を可能にする工夫をする。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画のもと、ホームルーム経営の改善・工夫に努める。	C	C	B
		他学年や各分掌と連携しながら、各学年の生徒状況に応じた、適切なホームルーム内容になるよう努める。	C		
	主体的な生徒会活動や創意工夫した学校行事を計画、実施する。	生徒の意見が反映された学校行事になるよう創意工夫をし、行事を通して生徒が満足感、達成感を感じられるような生徒主体の取組になるよう努める。	A	A	
		生徒会や各局の日頃から活動を通して、生徒同士や教職員とのつながりを深め、よりよい学校生活にする。	A		
進路指導	「働きながら学ぶ」を実現できるよう指導する	就労先と連携し、就労を継続させることにより、社会性を獲得させる。	B	B	B
		不就労生徒への援助・指導を行い、就労に必要なスキルを高める。	B		
	自己の能力と適性を把握して希望進路の実現を目指す	生徒個々に対応した進路指導を行い、卒業予定者全員の進路決定を目指す。	A	B	
		支援を要する生徒の進路を関係機関と連携して決定していく。	A		
	下級生の進路意識高揚に努める。	B			
生徒指導	問題事象の未然防止や早期発見ができる体制を構築する。	規則を順守させ、規範意識を定着させる。	C	B	B
		各分掌や教職員と連携を密にし、生徒の状況把握に努め、問題事象の未然予防や早期発見につなげる。	B		
		学校外で問題事象がおこった場合、地域や関係機関と連携し適切に対応するよう努める。	B		
	信頼、思いやりに基づく人間関係の育成に努力する。	相手を思いやる気持ちを育み、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。	B	B	
		いじめや他人を傷つける行動・言動を撲滅するため、人権教育と連携し指導にあたる。	B		
		あいさつの励行、適切な言葉づかい、適切な服装の着こなしができるよう指導する。	B		
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	生徒の社会的自立に向けた支援のための学習を計画的、組織的に実施する。	B	B	
		全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を行う。	B		
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため、教科学習の指導を充実させる。	B		
		人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みを行う。	A		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
研究・研修	教科指導力・生徒指導力の向上に努める。	学校の課題を明確化し、課題に合わせた研修を計画的に実施して、課題解決を目指す。	A	B	
		生徒規則や校内規定について、本校や他校の規則・規定と比較、検討を行い改善を図る。	B		
健康・安全教育	生徒自らの健康管理能力を高める。 支援が必要な生徒の適切な支援をする。	生徒一人一人と丁寧にに関わり、生徒の自己理解を促し、生徒自身が心身の健康について自分でコントロールする力とともに、困り事や自分で解決しにくい問題について周りに助けを求める力を身につけられるように指導する。	A	B	
		保護者、関係機関と連携をとり、教職員全体で生徒の特性について共通理解を図り、それぞれの生徒の特性に合った支援により、生徒の能力を最大限引き出せるようにする。	B		
施設・設備管理	施設設備の点検を日常的に行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の定期点検を実施し、危機対応へ備える。	A	A	
		教育職員との連携によって、適切な教育環境の維持や、設備改善、安全管理に努める。	B		
		施設設備の安全で適正な使用を促し、効率的な経費の分配を目指す。	A		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、知識や思考力を身につける	座学では、農業に関する知識の蓄積や、科学的な考察のしかたを学ぶ。また、実験・実習を通して体験的、実践的な農業教育を展開する。	B	B	
		実験・実習を通して、集団内での連携・協調を促す。	B		
		学年・生徒ごとの実態に応じた学習内容を検討し、指導方法を工夫する。	A		
	校外で連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育む	農業クラブ活動（競技会成績・資格取得・関連行事等）の活性化を目指す。	B		
		農場生産物の品質向上を目指すとともに販売を積極的に行い、地域への貢献を促進する。	A		
		家政科との連携を強化し、美山分校の教育活動全般を活発化させる。	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
家政科	家庭の生活やそれに関わる産業に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	個々の適性に合わせた指導法、教材を研究し、専門的知識と技術の定着につなげる。	A	A	
		外部講師を活用した体験的かつ専門的な学びの機会を設定する。	A		
		課題解決的な学習を通して、主体的に学ぶ態度を育て、生徒一人ひとりの達成感につなげる。	B		
	学習したことを活かし、自分や家族、地域のより良い暮らしにつなげる意識を育てる	農業科と連携し、地域とつながり、地域社会の活性化に貢献する取組となるようにする。	B	B	
		持続可能な社会の実現について深く理解し、学んだことを実践し、発信する力をつける。	A		
第1学年	高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	授業に集中できるように学習環境を整え、基本的学習習慣を身につけるとともに、基礎的な学力の定着を目指す。	B	B	
		主体的に考え、自己の行動に責任を持たせるように努める。	B		
		他者を思いやる気持ちを育む学級運営をする。	B		
		H R活動・学校行事に自主的に参加できるように働きかける。	B		
第2学年	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な態度・マナーの定着を目指す。	基本的な生活習慣を身につけるためのソーシャルスキルトレーニングを行う。	B	B	
		個々の生徒の実態や発達段階に応じた支援・指導を行う。	B		
	他者との関わりを通して、より良い人格形成を目指す。	集団の一員としての自覚を持ち、自己の役割を全うするだけでなく、他者を思いやり行動する態度を養う。	B		B
		日々の学習や学校行事の取り組みを通して、周囲と協力して物事に取り組む機会を設ける	A		
第3学年	他者との関わりを通して、社会人として必要な資質や基本的な態度やマナーを身に付ける。	生徒一人一人の特性や発達段階に応じて、個々の生徒が活躍できる機会を設ける。	A	B	
		グループ活動を設け、自主的・自律的な活動を促す。	B		
		就労を促し、実社会に関わる機会を設ける。	B		
	卒業後の進路実現を見据え、自己理解を深める。	生徒が卒業後の進路を意識できるように、キャリア教育の充実を図る。	B	A	
		生徒が客観的に自分自身を理解するための取組を行い、進路選択につなげる。	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第4学年部	生徒一人一人の特性、興味、関心に応じた進路実現を目指す。	生徒一人一人の特性や発達段階に応じた進路を実現にできるようにサポートする。	A	B A	
		就労を促して実社会に関わる機会を設け、社会人としてのマナーを身に付けられるよう指導する。	B		
		卒業後の生活を見据え、社会人として必要な知識やソーシャルスキルを身に付けるための取り組みを行う。	B		
	他者との関わりを通して、よりよい人格の形成を目指す。	個々の生徒が活躍できる機会を設け、生徒の自己有用感を高める。	A	A	
		生徒が最高学年としての自覚を持ち、学校全体のことを考えて行動できるよう指導する。	A		
国語科	国語の知識や技能の定着を図り、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高める。	実社会に必要な国語の知識や技能の定着を図る。	B	B	
		小論文指導の充実を図る。	B		
		ICTを活用した言語活動の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫を施す。	A		
		図書館を充実させ、読書習慣の定着を図る。	B		
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	各単元で必要とされる基礎知識を復習してから授業に入るようにする。	A	A	
		プロジェクターを利用して視覚的にも分かり易い授業を行う。	B		
		考える時間や演習を多く設け、生徒が受け身にならないように配慮する。	A		
		理解が不十分な生徒には個別指導を行う機会を設ける。	A		
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能の向上や健全な心身の発達を目指す。	体育の学習を通して、体力や運動技能を向上させるとともに、運動に対する知識理解を深める。	B	B	
		体育の学習を通して、公正、協力、責任などの態度を育てる。	A		
		保健の学習を通して、健康で安全な生活を送るための基盤を養う。	A		
		保健の学習を通して、環境問題・健康問題についての課題を発見し、その解決に向けて思考し判断することができる力を身に付け、実生活に生かせるようにする。	B		
		レポート作成の課題を通して、環境問題や健康に対する知識理解を自ら深めるとともに、他者に伝える力を養う。	B		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
英語科	中学校での学習を土台にしながら、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	聴く、読む、話す、書くという四技能をバランスよく学習させる。	A	A
		言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。	A	
		英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。	A	
		必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。	B	
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。	B	
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係教育機関との連携、協力を進める。	面談・家庭訪問、学校行事などの機会を活用し、家庭・保護者との連携を深める。	A	A
		地域の人材や関係諸機関の機能を活用し、地域に貢献する活動を進める。	A	
		パンフレットやホームページ等を活用しつつ、効果的な広報の検討を進める。	B	
		育友会事業について、充実と負担軽減を図り、参加しやすい運営に努める。	A	